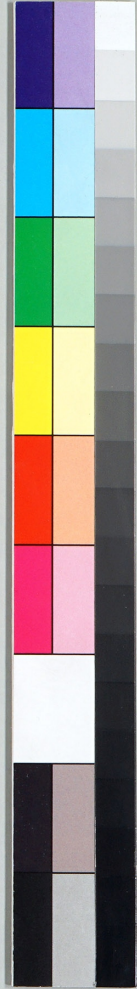


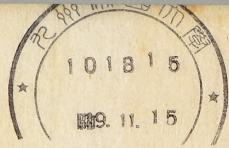
靖献遺言講義

下

560
七
五







靖献遺言口羨卷之七

劉因

燕歌行 歌ト云体ハヲサヘツ揚ツフニ有テ強体之行トハ叙竟ニ  
 韻ヲフンテ歌ヲ兼タモノニテ日本テ長歌ト云モノヤウ之六  
 朝時分カラ 歌ト行トニツテハナシ 歌行ト云テ日本ノ朗詠ノ如  
 ク叙古又ナフテ歌フヘキ者ヲ云 燕ト云一字カ劉因ノ一大隻ノ  
 心アルト之其ワケハ先テ知レル天地ノ間一枚ナレハ是ヨリ先ハ  
 雅カ地ト云トモ天地カラ見レハ無レモ血脉ヨリ云ヘハヒトリ同  
 地ノ内テモ一家一群夫レノニ分レテアル是ヨリ自然ノ根ハヘ  
 ノ理故中国ノ夷狄ノト夫レノトニ別レテ風ニモ違フテ有之日本  
 ノヤウニ一本立ニ鳥ノヤウニ中ニ有ルハ各別唐土ハ方ニ土地カ替  
 リテアル然ルニ堯舜以來九州ト分レテ此ヲ中国トス燕ト云モ九  
 州ノ内之然ルニ五代以來燕ヲ夷ヘトラレテ周モ宋モ何トソシテ  
 此ヲ取カヘシタトトシラレモ夷カ強フテ取カヘサレヌ劉因ハ  
 此ノ燕國ニ生レタ人故ニ夷ノ國トナルヲコトノ外口惜ク思フテ



忘レラレヌヨリ此歌行ヲ作ル処士ト云モ淵明ノ処テ云々通之皆  
元ノ刘因ト云ヘ凡ソウハ云レヌ故只処士トノミ書テ国ノ名ハ書  
又此ハ宋ノ遺民ト云ヘ凡ソウテモナイ堯舜以来ノ正統ノ名分ヲ  
立ル人故此ノ人ハ何共付ヤウカ無イ孔明ナトヤウニ戰場テ働タ  
テモナシ又天祥ヤ謝方得ノ如ク節ニ死ナレタト云テモ無レ凡イ  
カニ大モ奉公モセス此ホト大ナ出処テ急象ノ高イ人ハ無ソ刘因  
ノ生国吟味ノ多ク入ル  
因字夢言保定此テハ此処書ハ推カ地ソハ吟味アリハ五代 晋ハ  
契丹カ、リ立タ故礼ニ此地ヲヤリテ古今ノ越度テ仕出ス 契丹  
タツノ名皆此地各ハ代ニ替テ 從珂キシノ各自立已レト王号  
ヲ付 石敬瑭ウテハルヤツ謀反起サフト思フ故 從ヤツテ 地  
鎮 国サカヘ之此所ノ守リニソク 拒余 ウケカワス 桑維  
手下ニツク大将 奉表ノソミヨエテヤル 称臣 主ト戦ユヘ危  
ク思テ 約 如此進上イタサフト 虜 海道ノ名 中国患

中国夷狄ト口カレテアルニ夫レヲアチヘヤルハツテハナイ 将  
兵 タスケノ兵ヲツカハス 十六州 四十三州ハカウノ内ヲ是  
也ケイトウカ當坐ノ確ヲノカレウテヤルユヘ後世ノ大患トナル  
関南北ノセキアルニ関ヨリ北ヲニタエトリカヘサヌ世宗ハ  
器量人宋朝ノ前ノ国ニ函州関北ノ地ニ 遠祖 志ヲトケス 來  
使者ヲツカハシテ界至 日本テ界ヲ立ルニ四至室至ト云モ  
此ノ至ノ心ニ四至ハ東西南北ノ四方此カラ是ニテト云フ与之ア  
干ノ急ヲユルメル為ニ先ツ与ヘテ討トラント云モ愚イ了簡了勸カ  
後ニ大害ニ成タ 連陷シキリニ取ル 夫故両方カラハサシ立テ  
セメル 石晋 敬瑭カト 既而 取カヘシハシタカ 構隙 中ノ  
愚フナルヲ保定容城ト云地ノヲコリハコウシタト云フヲ見  
セル孔明ナトノ処各ニハ此ノヤウニ云ス此ニ如此云ハ此人ハ  
処カ一人ノ吟味ニ燕カキツカリト中国ニヤト云フヲミセタモノ  
ソ 蒙古 元ノ一之 天質 タノイ天ヨリ得タル生レツキ

起、返、人ニカケハナレコヘタ器量ニ  
ワタスト、如古人此ヤウナ友ホシイトノソム、希聖、周子ノ聖  
ヲノソムト書レタ夫レヲ人カ不審スル故ソノ云ホトキヲスル  
一丁、訓古、只文字ホトキ斗ノ十三經ノ古注ノヤウナヲ云時ニ  
元ノ乱ニテ朱子ノ書モナカツタ昔ノ唐ノ文字ノ莫理ヲ見考極メ  
リ、固摺、コウコソアラウト思フタレ、不苟合、アハセテイ之  
交、メツタニ交ス教授、弟子ヲトリ、材器、ムカウノ者ノ立  
ヤウニスル、公卿、此時ノ先世ノ家老宰相レキノ、カ、性、ニ何  
トソ近付ニナリタイ云ヘ、臣ニミ、臣不思ヨケサケテ、弗恤、ケ  
レ、臣主ハ若ニセ又トカク心ヲ打破テ物裕リスル者モ無故アハ又  
静以、此孔明カ言分大ナ名言ト古来カラ云小学ノ喜言ニアリ  
心ヲ物ニウコカサレヌテ無レハ身ハ治ラヌ、以薦、ス、メア有  
テ、右贊善大子ノソハニ居テ物ヲ教ル官ニ善ヲタスクルト云テ  
太子ノ守リ之左右ニアリ、辞飯、初ヨリツカヘヌ合点ナレハ断

云テ飯ルハツシヤカ贊太夫ニ一旦成レタカ疵シヤト通鑑ノ評ニ  
云ヘ、臣此ハ竟体ト云テ苦フナイ同ヨカラ子臣此ハ元カカタメテ  
是非召出ヌ其上禄ヲモウケカヤウニメ、母ヲカコ付テ釣ルナレハ  
疵ハ付ヌ初ヨリ仕ヘヌ合点ユヘ禄ハウケヌ其上元カ至ノ敵ト云  
テモナシ、只夷狄ノ地ニハ歎カレタモノニ、喬虛蔡モ此カ疵ト云テ  
色ニ云ヘ、臣疵ニハ成ヌソ、俸給、アナタテハ一月ノ、ニ錢テ渡  
ス、集賢學士、天子ノ倫旨ナト取アツカウ大學士ト、云官翰林  
學士ト同、天子ノ代筆スル、世祖、此ホトハ、十人ハ無ケレ、臣  
不召、臣、天子ノ權テモ召仕フコトナラヌ節、幾ノ士有ルト孟  
子ノ云レタルハ、嗟、知モ知ラヌモヲシシイム、既陽云、  
元ノ儒者此カ因ノコトヲ能知テ此ホト能ク表章シタユヘノセリ、  
此士皆、ト云ヘ、臣大体テハ云ヌ、英君、一、急カル君ハナヘノ  
甚イキリヤウ立タ、恒辟、羨ノアルキニ、總攬自由ニ取コワシ  
柄、始皇ヤ日本ノ秀吉ノヤウナ人テモ権柄ハ、テ呼テモユル

カヌ 昭然 アキレタル免 真有貴 真实ニ吾威勢ニテモ徳ハ  
ヲサレ又免角学問無テハト言処士宋ニモ元ハ仕ヘヌレキノ一処  
士ハ多ケレト此人ヲ一番トスルハ此カ敵ト云テモ無イ夷ニツカ  
ヘ又ト立ル故ニ昼像此人ノ昼像ハ知レ又遺言ニノセル八人ノ衆  
外ノ衆ハ三ノ昼像モ本集モ見タカク劉静持集ト云テ五六卷有ルト  
云カ夫モ見ヌ何トソ此人ノ見ヨト思フテ唐本ヤ長崎ニテ尋タカ  
見ヘヌ 四皓 漢ノ高祖天下ヲ取テ召セ出ナシタ人ソ 畧  
武畧トテヲツ取ニツシノツヨイ者ヲ云兩生皆因ニアテ、云高  
祖カ叔孫通ニ命シテ朝廷ノ礼ヲ制スル叔孫通モ礼者ナレトヘツ  
ラニ者故高祖ノ氣ニ合テヤウニ制スルソ 十生 十人程主ヲト  
リカヘル 薛瑄 文清ノ一此云レヤウ能ソ 鳳凰 名鳥故ケカレタ  
者ハ噴ヌムサイ処ニヲリス 微矣不云メ底意ノアルヲ夷狄ニ仕  
又一 薊門 劉ハ待カ上チナレト氣象カ高テハセ夕云故取惡キ

処アル之薊州ノ生レタ所テ此ニ門右テ入ル処ト見此詩ハ全体ノ  
意カ誠ニ堯舜以來中国ノ他ナルニ夷狄ニトラレタ扱テモ口惜キ  
ト哉ト感慨有テ作ル夫レテ其類ハ古更ヲカツテ作ル薊門一古  
ハ結構ナ処テ有タカ今ハ慈果タト哉ト涙ヲ流シ思ヒ過シテ見渡  
セ吹風ニテ物悲ク有タホトニ 注 送至之処 燕丹薊軒ヲオク  
ル時凡蕭々兮易水寒壯士一去兮不復還ト云タ処之史記ニ委 寒  
波 昔ヲ思ヒヤツテ見レハツトスル 何改色 昔ハ中国ナルニ  
今ハ夷トナレハ風景ニテ色ヲカヘテ悲 微子 主シノ一之  
在何処 トコヲ目カケテ燕哥ヲ歌フソ 青丘 見レハ波ノ青ク  
重ルヤウニ見ユル 隋介 築地 ナトノヤフル、  
一 齊郡邑 齊ハ大國テ七十城アルト云古更ニ百ニ秦ハ天下百  
分ノ二ホトノ國ト云ト中原ノツヨキヲ云夫レカ皆秦ノ山河ト  
ナルソ此ハ史記ノ始皇ノ未始皇カ賛ニ云タ一之此ハ三ノ考ヘ  
ヲ取テノ云分ソ 有管樂 管中樂ギ之戰國ノ間ノ学述ハ漸管ホ



テ此ラハ只軍行ヲシテ学述正ク無イカラシテ国ニヨキ者モナク  
ツフルタソ 蚩ニ ウロタヘテ前後不覚ニ 兪 切タ、クル  
ヤウニシラル、民割地 更ノ字面白キソ奪シタハ是非無イカ此  
方カラ割テ与ヘヤツタサテノ口惜キ浅間シロ哉吾等ニテ夷  
狄者トテシテ名分ヲソコナワス返ルモ何故ナレハ石カ割テヤツ  
タ故ト恨テモ恨メシキ石郎トツヨク當テ、云ソ 石郎敬塘カ契  
丹ヲ親トセウト云約ヲスル故夷狄ヨリ即ト云太郎トテムス子  
ノ一之 多 此ヨリユクサキ何ト有フト思ヘハ衰フテ此曲ヲ徭  
コヤニテ悲ムニテソ 按列因 先輩 薛文清ノ一 三丁 的然  
ハツキリト 逸 又ケテ挙ル 高陵 堯舜以来ノ名分ヲ立  
ルハ 傲 賤 エ、キタナイトニテ三付テアルト是ハ明ノ儒者カ  
列人替リニ書タノコウ云ヘハ夫レハ外テイノ処士ナリ列ハコ  
ウシタワケテナイ堯舜以来ノ地ノロツハリカラノ名分テ仕ヘ又  
ソレテ列ノ言メツタニ元ヲキタナイヤツトシカラルトハナイ免

角地ノロツハリカラノ吟味ソ 注 渡白瀟 舟ト燕トノサカロ、  
ニアル川夷ノ地トナル此ヲ口、へ入ルハ後世列因ノ一ヲ何カト  
云テ取紛ス者カアルス由テ相ヨミノ為ニ付ル殊ニ列因ノ待少キ  
モノ故何ヤカニ付テ置ク此モ通鑑等ヲヨク熟セハ知レ又ナレハ  
爰へ挙ルテ先ハキコユル此ヲ通鑑ニアル 孤懷 吾トトリ中国  
ノ者ト云 灑落 物ノ不滞スラリノトエク 萊公ト云真宗  
ノ宰相之契丹ヨリ澶淵ヲ犯スヲ云散ス此時 地ヲカセヌ委一  
言行録四卷綱目ニアリ 雄才 地ヲ取カヘサレタ賢徳有タ英主  
テ千年ニテキコヘタ十年 一トカクヘル年カアルカシレヌ 鐵  
硯 前ノ桑維翰カ一之此ハ若キ時ヨリ余リ学文スルユヘ親カラ  
ケト云呷タレハ鉄ノ硯ヲ取出シテ此ヲスリツクシタラ止フト云  
テ馬糞火ニ焼テ学文スルト云此レカ名高フナリテ夫ヨリト云  
サレト何ノヤクニ立又学問シヤ夷狄ノ地ヲ割テヤレト云ヤウナ  
ヤクタイ之 五載 五年カ間セヲモツタト云一カ五年ヨリ一年

多キト思フカス童同前ト云フカ 兎童 石郎ヲ契丹ヨリ大晋皇  
帝ト云ユヘ 横流 白溝之 函燕 此ノ武氣ノツヨイ国ト 鳴  
咽ノキムセフ声ヲ云衆ノナル声カイカサニ夷ノ地トナルヲ怒テ  
嗚咽カト聞ヘル 萊公ナカイフエヘイニクワツシテノセル 從  
晚福 一後唐ノ莊宗ト云カモト沙沱ト云夷狄ノ者ニテ夫ヨリ一  
アカリ天下ヲトル故ニ如此云横流ハ横ニ流ル 河ヲ繩ハリメ申  
ヨリ取タヤウナ者シヤト云フ本カ夷狄故之 正史 元ノ正シキ  
ハニノ本ソ此一ツノ相子ニノ待之 荆襄山 此モ中国ノ山テ金  
ノ地ト成 燕蔡 史記ノ古夏ソヒタト乱世ノウツリ替ルフヨ云  
燕ヲウチ秦ヲウチスル一 憂来 此ヲ思イニハセハ 蓬萊 海  
中 有ト云カ此ヘニイテノ夕人ノ同一盃 魯仲連ハ戦国一苗ノ  
士ニテ始皇ヲ帝トセハ東海へ行テ死スル也此ヲ帝トセニイト云  
テ各方ヲ立ル界ナレハ此人トアハレ吾情ヲハナシタイト之 晚  
日ノ夕レ之燕ノ人故古セキラ尋ル 海列 嶺列ニテ皆燕ノ内

之燕北ニメ朝鮮ニ近シ古ハハ燕テ有シカ中此遠ニ成夕 每當多  
イト、サヘ物ヲイニ此ノ臺ニ上レハ感慨多ソ 更尚塵跡 五ヶ  
カケレ夕足ヲ付ニイト思フ 十年 金ヨリ元ヲヘル大分ノ年数  
ヲ経テモ如此ニ思ルト之 殊更ノ感慨之 暗 此句ナリ面白シ  
此ヲ待テハナイサクト云杯酒 此ヤウナ時ハ一盃ノンテ我情ヲ  
云タイモノナレ正ソレカ酒ヲ吞ヌヘソフモナラヌト酒ノウス  
イカラ意ノ深イヘウツシテ云 易京 太子丹カ都之 神器 天  
下ノ政道ヲ云神明ノ器ノ如ク大夏ノ正イ統ト云フ群盜夷狄ニ史  
分取ラル、故金人泣是三国志ノ注ニモ出ル一始皇カ天下ヲ取テ  
金人十二ヲ作テ長安ヘ立ル此カ後ニハ都ノ各物ト成テ曹操カ時  
都カヘヲスルユヘ皆金人ヲ引取タソ夫レカ道ニテ引出シ重テ行  
又後ニ目ヲ見タレハ涙ヲ流メ居ヌソ皆云ハ始皇以來長安ニ都ヲ  
立ル天下改リ引ル、時節ニ成故金人サヘ君臣ノ義ヲ知テ泣カト  
云タソソノ古夏誠ニ泣テモ有ニイケレ正其時ソフ云夕ソフナ南



都ノ大佛ナト見ルヤウニ兩テ金シルカ出テサニテ泣タヤウニ見  
ヘタナラシ有餘怒 折節雷カ鳴カ昔ノ忠義士ノ怒ナラシ  
英烈 田疇ハ後漢ノ末ノ者ニテ漢家來曹操カ天下ヲ二口メルト  
一分ニ山ヲ一ツカ、ヘテ豪民ヲ下ニ付テ曹操又リ吾身ニ  
引ウケス云カ 夫以此 此ハ因ノ忠之 律之 夫ヲ以テ行金ニ  
アテルト 許衡 許魯齋ヲ丘氏ノ正史世細ト云書ヲアミテ甚セ  
メラレタソ 吳澄 臨川ノ象山以來ノ心学ノ大将ニテ博識ナモ  
ノ此ハ宋ノ及弟ニテヘタ者シヤカ元ニ仕ヘテ元朝ノ政礼式大  
分此レカ云テヤルソ丘氏ノ此ノ二人ヲ甚セム 丘濬 字仲潔明  
朝一番ノ經学博識ナル人ニテ笈業モ廣キ人ニ笈業ノ分ハ皆エキ  
アリ行笈補ヲセラレテ西山ノ裔家以來ノ者カレタヲ補レタソ人  
カラニハテト疑スヘキハナシモ有ナ正史世細ト云大分ノ書ヲア  
ニレタ此モ唐本ニハ珍書ニ此ハ全ク魯齋ニアテ、カシタ書ニ薛  
文清ハ学問出處又丘氏ノ及フ處テナシ朱子以來ノ一人或ルカ魯

齋ヲ殊ノ外ホメテ道学ニ入ル学テ取カ徳テ取カ然ニ元ヘ仕ヘタ  
ハ善氏惡氏云テナイ故カ心得ルト此ハ丘氏ノカ春秋ノカ子ソ  
得テ言シ魯齋一代ノトヲ丘氏ト薛文ト論シラル、祝ヲアツメテ  
魯齋考ト云ヲ山崎氏ノ作ラル、ニニ卷有タカ山崎氏ノ一代ニ紛  
失シタ夫レテノセラル、ホトハ筆録ニノセテオトアルト  
一會之此 許隣國ノ諸侯トノシハラクノ會スルニサヘ夷ノ分ハ頭  
ニ入ラレ又頭トル者モ中国ナレハユルヌ此ノ春秋テタテラレテ  
ハ魯齋モ動ソ 責備 楊雄ハ莽ニ仕フタソ何モカモノコル處ノ  
ク具タヤウニ人カ云ソ夫レナラハ逆モノ変ニナセ此ハ惡トソト  
云合点カラセメタモノハ論テ無イ人間ナレハ云モタラ又故ノ  
ニ及子ト魯齋ハ文清モ見ニカウホトノ者カ夷狄ニツカフル本  
出スエヘセムルソ 梁臨 名カトクト知レ又故氏ヲ書テ下ニ所  
ノ名ヲ書入テヲイタ 毀冠 中国ノ冠リヤフリステリ 許若曰  
此ハ衡ヲ宋ノ民ニ落シ付テ云タモノソ 怫然 一カホ赤メル



醜一キタテイト云一以宋儒丘氏ハ元ト出サレタ此テ宋ト  
代ノ名ヲ出タハ宋テナリ渡タモノカトキロシク當ラン為ソ注  
袁黄曰此ニ付テ袁了凡網鑑ニ魯齋カ一ヲ救フテラク元此袁了  
凡ト云モノ出家ヲチノ儒者ナルカ明ノスツト末ノ者ニ本佛者ニ  
ヘニ儒者成テモ凡ヲ了スト云佛語ヲ字ニ付テ居ヤウナ不埒者ニ  
此ハ秀吉ノ高麗限リ時大將メ出テ加藤肥後殿ニ追ニケラレテ逃  
タ界ニ此カ細鑑ヲ編ヲキツウヨイ評ト云テ今世上專ニ用レハス  
ント悪イ者ニテ大ニ害ニナルヲアリエテ忠義ノ一ヲ云ヘハハヨ  
ニナノ格ヲ云出メ疑ヲナス此魯齋カ生レタ地ノ秀ヲ云別テワ  
ケモノナイテ故吟味ヲツメテ一ニ下ニ弁シタソ魯齋カ分ニテホメ  
テヲクナレモ弁シテヲクソ注速頭元ヘ仕ヘテレキノニ成テ  
致賓服客人ノヤウニアテカラ服シテ成ル有フ有江漢古  
大王ノ徳ヲ修メテ民カ心服シタト云一有待経江漢ノ篇カ徳ヲ服  
スル待之避地乱世ヲ気ノ毒カリテカ王秦固ノ王ニメ天下ヲ

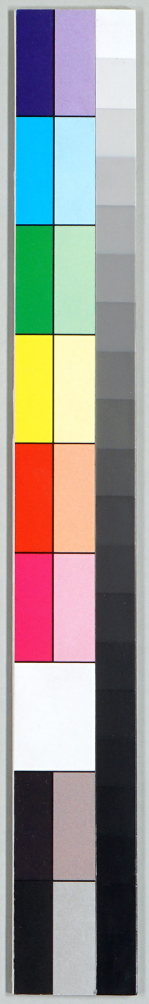
取サル時之京兆秦中ノ都ニ極学ノ学校ノ双フ之祭酒  
宮ノ双皆大宮之機勢老中彼冀州中国之ニ州中国之開封  
府此テ魯齋生ル地ヲ吟味メモ中国宋ノ者ニ又号ヲ云ヘハ一  
本文ノ評語ナリ宋儒宋テ及第コソセ子宋ノ遺民ニ蠶食ク  
ハ出ノ桑ノハヲソコノトハタヨリ食ニワス一之ムホシ人ノソ  
口ノトイトツトナシニカキ取ニヌヌム一ニタトフ五下故地  
分城本コレハ中国ト云一ヲシラ又前ノ考ナシニ金元ノ地ト成  
夕上テ云故大ニ違フソ可謂疎アラヒ考ソ此テ地ノ吟味時ノ  
キニ三ノ惡イハシレタ且修徳此ヨリ魯齋カ云分ヲ弁スル  
教元中国ユヘ聖人道テ敬從ヘト云ヘハ聞ヘタカ痛タヤウニトレ  
ト云テ何異取ト云ハ替リハ無ソ不汚トカク已ハ中国ノ  
民ノ孫シヤト云テ三百年來夷狄ノ地ナレト仕ヘ又少弁別此  
ハ本ト云ノ地ト云一ヲ竊據ヌスミヨツテハイリタルニ為  
盜有此カ庫ヘハ入テ居ルカラハアレカ物ヨト云テソ且更

一々其次手ニ盗ニカタウトメ 計尽、ハカリテノ手引ヲシテヤ  
リテ 家墓、家ノ土臺カラヲ 何理耶、本コイツハ主ノ者トル  
盗ト云テヲ知ラヌ 或曰此説ハ魯齋ヲ助ケ云夕者ソ魯齋ハ大分  
出処ニアツカルモノテ人ノ不審ヲ云テ故隨分ホシテ弁スルソ  
彼厲、百姓テツカワレタ 不然、殿カ替レハ其殿ノ百姓ト云ハ  
大抵ノ一之 体勢、カラハ一ノ一 天下万世、天下カラ云テモ  
宋ノ敵万世カラ云テモ春秋ヨリシテ夷狄ニハ足ヲフミ込メハツ  
テ無イ 天壤、トレソ御一門ヲ取立ルハツ若シ其ヨウナ人ナク  
ハ 糜、タ、レツフル一 不仕、トコニテモ、遠近、代ノ田  
新、仇ノ、常熊、代カ遠イ故ニ仕フト云ハ大抵ノ一之仕、金、親  
カ仕ヘタカラハ此方モ其家ト云ハ中国テノ一之夷テキニ仕フト  
云ハ親祖父カ孫故不用タトヘハ日本ノ者ヲ取テムリニ奉公サセ  
タリ共ソノ子ハ日本ヘ帰ルハツ之親ノツカヘタハ是非ナイ一之  
夫レテ因ハ眼カ明テ 超然、一人飛上テ先祖ヲカヘリシス飛

一ノクソノ 常事、次ハ只屋賃出テ居ルヤウナ者奉公スルトハ違  
フゾ 蕪粉、ツカヌ米ニ皆腹切子ハセハスデハ無ソ枋得モ初メウ  
ラヤ算セラレタゾ 龔勝、枋得、モ元々王莽カセマラズハ死ニハ  
セラレコイゾ 暴威ヲドスト 却迫、又ヒヤカス、死生シヤリ  
ムリニツカヘサスルニ 王虎谷、明ノ儒ニ細鑑ノ内ニ有評ニ孔  
子ヲ紛ラスノ故モ一ツノ不審ニ 東、中国ニ、君、臣、廢、焉、ソノヤ  
ウニ夷テキハ仕ヘヌト云ヘハ一代奉公ハナラヌモノト云皆天  
下ヲサヘスレハ君思謀カラ云 裔戎、スエノ夷ス 僭竊、今マ  
テ中国ノ名ヲ盗ムエヘ 回、天、ヤ、ス、イ、佛、躬、公、山、謀、反、シ、テ、呼  
サヘ行ト云孔子ノカテハ其モ変メ忠臣トスル覺有フガ六丁、所  
謂、伊、川、ノ、春、秋、傳、ノ、序、ノ、一、昭、孔、子、ノ、心、ハ、初、ヨ、リ、ト、チ、シ、テ、モ、カ、ハ  
リハ無ゾ 得、討、モ、ス、ニ、ミ、タ、リ、ト、不、思、次、程、思、按、ノ、ア、サ、イ、一  
ハ、ナ、イ、大、矣、是、ア、レ、ラ、ハ、只、主、ニ、事、ル、バ、カ、リ、ラ、義、ト、思、フ、衆、勢、  
万、一、勢、ニ、ノ、リ、テ、天、下、ヲ、取、ト、吾、ハ、臣、ナ、レ、ハ、君、ト、何、ノ、ウ、ケ、モ、ナ、フ

双アゾ 女真 金ノ一 蒙古 元ノ一 崩崩 武王ノ殷ノ民ヲ殺  
スハヅテハナイ糾ガ悪ヲ殺ノミジヤト云レタレハケモノノ角ヲ  
クズ、如クニ腹ストニ 畜養 謀反人ニ牛馬養ハル、マウニ養  
レテホダシツナカル 乱臣 龔勝ナトハ乱臣ノカシラニナル  
尤倫不廢 坎ガ皆義理ニ極ル処カ無故常ニ口デ云フモサト云  
ト動ヌゾ 分疎 ラレハコウシタワケ云ワケスル 説 舊カラ  
スノギアフノトナキマワルヤカマシイソ 名教 五倫ノ身逸  
道心者テハナシ 日因 モ一ツ不審アル却一 根ハ中国ノ民テ  
アチカララヒヤカサレテ 無可変之理 仕ルハヅハナイ日本ナ  
ドノ一本立ノ困トハ違フ 灼然 タトへ夷狄ノ君堯舜ノ徳アリ  
テモ夷ノ君ナレハ不仕坎心テ困ノカ明カニ知ル、ソ 丘渚天  
日 所作ドレガ因ノ知レタ人ニ退齊ト云符号ヲ付テヤラル、ト  
キニ退ト云字ハ孔子ノ道ニモ有ル、孔子モ云フニソレテ坎ヲ思  
違ルト大ニ違フ、孔子ノ道ニ退ト云ハ自慢ラセズ高カラヌヤウ

ニ位ニモ安リニ不付殷勤ニスル、一人ハ必慮外ニノサハリ徳モ  
無テ身ヲ高フリタカル夫レテイツテモ高フラス、下ラセヨト此ヲ  
符号ニスル老子ハヌスヘキ義理ヲモセズ六ツカシクセワヤク、  
人分ハ皆ワキヘテケテ居テ昔レニ損セヌヤウニ六ツカシキ目ヲ  
セズ人ヘニシリ付テラク世ヲ退テ見ルヤウテ隨分邪術ニテアレ  
カ退クト云ニ此カ紛ル、ホトニ紛ラヌナト云テソノヲ書シ  
タリ、一時ノ利害 吾一分ハカリノ其時ノ勝手ナラ云此ハ魯  
齋カ下ニ付テ云ソ一時ノ利害ヲ仕ヘニイ元へ仕ルソ 節量 ヨ  
イカケニニクミハカラノ、休人ノ目度キ 戚難受、万物之表  
前ノ通ナレハ扱モ悪イ、天下ノ表トナツテ魯齋ノヤ朱  
子以來ノ道統ノト云テ天下ノ一人トスルサレハソコカ老子カ行  
テ又ケタ者ソ 時一 代 美一 理 名一 分 理 美 理 莫  
知 養之 魯齋無ケハト云テアレカ各ヲ奪フ者モ此レカトント老  
子カ行テ惡直ニテ己ハ身カニヘシテワキヘノヒテ居タモノソ

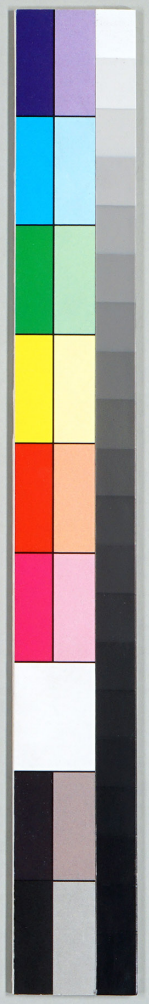


陳俊民 因ノ弟子ソ 謹曰 ソレヲ見タ不審ツ云タソセテ之  
人ノ非ヲ自下ニサス 注 劉仲群 此モ弟子ソフナ 蠹  
ウコメクトテ春先キ芋虫ナトノ 何ノ知エモナフムコトト動ヲ  
云此モ紛ル、字之聖人ノ云 蠹ノ字ハハシリデエナクカサリノナ  
キトヲ云老子カ云ハ上ハタルミシテ阿房ニ成テ底ニハヨソイ  
ヲ持テ人ノ惡イ莫ヲ見出ヌヤウナトヲスル老子カ書ハ義理ハ少  
モ不云皆ソソイトヲ書タリ世間ニ云老子ノ道ハアレハ三教一致  
ノ学テ佛ニミキラカシテ云タモノソ 頑鈍 漢書周亜夫カ傳ノ  
字権ト云ハツテノ一人カラノニベモシヤリモナイ 無常  
コミラヘルトモナフ 葆菴 人ノアミ笠キタリ笠カフリナトシ  
テ身ノ見ヘヌヤウニスルトシ 擇而取之 魯ト云テニケルホト  
ヨイトハ無ト思フタ 自利 吾勝手ニヨキタメソ 徳ニヒタ  
モノヘヌタリ返シト 言ハ許魯齋アレカ孔子ノ真似ヲシテ元ニ  
モ馳走ニ合中国ノ学者ニモ尊ヒラル、ユヘ云カ許魯齋モ魯

ト云カラ取テ付タソフナカ孔子云 魯魯ト云テ上ハハツミソシ  
夕生レ付テ無クモ何トソ注カ心ナリテハタラギノ無人ヲ云許カ  
ハ只無獨法者ニ成テ居テ元ノ馳走ヲウケテホコルソ此ハ云ホト  
ニ許カ心入モ無イトモアラフカ老子カ行ト云レテカラハ何モス  
テラレタソ 又曰 格遺言ニ 虛名 ナニシイ学ヲシタト云  
ニ死後元ノ奉公人ト成テ死スルカカ立碑 後ノ評判 アフモ  
イヤト思フテ之自ラ非ヲ知テソ 足矣 元ノ許魯齋ナリハ書ナ  
ト之自 知 死サニ目カアイタノフナ 下奉 綱鑑ニ出タモノ  
ソ 故士 袒部 屋 任ノ時ヨリ奉公人 范贊 周ノ世宗ノ時ノ宰相  
ノ主ヲ殺タ敵ニソノ終仕ル道学者一 只出家ノ血脉ノヤウニ覺  
タソ 不啻信 許カ罪ハ實ヨリ重ソ許ハ程朱ノ学ヲシテ道学ニ  
モ紛ル、者ナルニソレカ此ヤウナトスルト後世ノ学者カサテハ  
不苦ト思テアレヲ今本ニスレハ昔ニカキラス後世ニテ誤ル夫ヲ  
ユノヤウニスクイタカルソ定家ヤ貫之カ歌ノ上キカラ式子内親

王ノヤウナリ出来テモホムルヤウナ者ソハ下 同袁黄 允テ細  
鑑ノ評ト云格物シラヌモノ、云テユヘ根カ彼ニ立ヌ又陳仁錫カ  
通鑑ノ評ト云ヤウナ物ソ 殿前 軍官之 号宋 宋ノ太祖ト云  
是之 王傳 宰相ソ 構益ヲレハ耻シイ主ノ敵ニ天下ヲ渡シテ  
死タレハ 周孔曰 續通鑑ノ口及シタモノソ 偷生 死ナテ叶  
ハ又処テ  
又曰前ノ魯齋ニ付テ此ヨリ吳臨川カテ臨川ハ前ニ云如ク心学  
者ニ博識ナラヌ者ナルニ此人ハ大博識ニメ文章モヨク丘氏ニマ  
ケヌホトノ者ニ此モ老子カ術テ朱子ヲ拵テハ人カ合点セヌ故朱  
子ヲ立ライテトコトナフ埋テコウトスル心経附経ヲ西山ノセラ  
ル、其附経ニ此カ説多シ此外程皇環カ道一編ト云ラアラワシ理  
ニ三ツ無レハ心学モ朱子モ同変ト云テ朱子ヲ引入ル、心学者ハ  
爰上云テノ吟味セヌ故学問テカタリヲスル 御眞 在処ヨリシ  
立テヒテ都ヘサ、ケル進士及第サスル之直ニ宋ノ家来ソ 注

程文海 謝枋得ト一度ニヌ、メル 頸官 目立位ソ 幾何 一リ  
代ツカヘテアチヤツタト思フテアラフカ 頓ニハカニト云意ト  
ントウラカヘシテ 張時 養 續通鑑ヲ發明シタモノ 趙孟頫  
コトニ宋ト同姓ノ一門ヲ居テ元ニ仕ヘテ馳走ニ合テタル此人ハ  
趙子昂ト云能書テ世間ニヨク知タ者故弁スル許翹吳此等三人并  
スレハアトハ云及ハス此ヲハ人ノ知タモノ之 注 范祖禹 唐  
鑑ヲ作タモノ此ハ唐鑑ノ説ソ 為藩王 一國下サル、君テ天子  
ノニカキトナル諸侯ソ 北面至ヲ殺タル者ニ仕ヘラレウカ 東  
宮建成ソ 以弟 ナレ臣 賢君シヤ何テ仕ルト云テモアラフカ  
朝以 アイタノ無イヲ云カテ 委質於人 爰ノ字シラヌニ奉公  
ルト云ハ目ノクヲト云モノ之カニシノ時ハ逃ルヨリ外ハナシ  
著集注ニアリ 瀆祿 入ラヌヲククケカシテシルサヌト  
云テ本文ノ君子ト云ハ程朱ヨリ范祖禹ヘカケテ云 注 天屬天ヨ  
リツ、ケル一門可取日本テモアレカ書タモノハ石摺一テ代カス



ル繪モ能ク書テ孔子ノ像ナト有テ人カ貴ムカアレカ不忠ノ手テ  
孔子ノ像カタハライタイ弔嘗正統論ヲ作テ云レタ祠ソ創  
ナイノハル心近世元ノ時多疑焉イカサニ少シツ、夷  
カ邪广スル内ハ紛モ無カトシトアレカ中国丸メ取タ時ハ主ト不  
云ハナルニイカト疑フ徳祐此人ノ時宋ハツフレタ往ニアト  
カラト云辞カ能ク叶フユクノト云テユイタカラハツキ、ス  
ル故ソ衰麻主ノ天下ツフル、カラ一代ハ喪服テ死ンタ人モ  
アリ断壟丘山ノヤウニハナレ切タソワラ云遺沢一ニ百  
年ノ間民ヲアワレム遺沢カ皆羨ノ字ヲ知ラヌカラ御恩ハ捨カク  
イト云フモナイ御恩ナケレハ危モノソ天テ羨ノ字サヘ明ナレハ  
三百年シテモ忘レヌハツソ富貴大握テ云ヘハイホトヨイ物  
ハ無イ羨理モ一ナ羨理ハシヨイソ無愧羨ト云フカ無ハ富貴  
ニナラヌト云フハアルニイソ匹ニコセノト仕ノ仕ニイソ  
ト云テ不顧乎羨ノ字一ツテ人身ハ生テ居ルソ嗚乎世間皆

此ヤウニナツタトタンセラル注馮遺此ハ五代ノ者此ハ魯齋ト  
違フテ学モナシ然モ主カキニ任シテ口キイテ五代ニハホメタソ  
其後モ善者ト云者有故ソノ弁之利因ノ弁聞フエヘノセタリ五  
代主ヲ付テハトリノメ五代ニテカハル十下滑稽ヌメリ  
カハリトトウケ云ニワルヤウナソソ不離只アレヲカウツモ  
ノニメトノ代ニ高官ニシタ臣カ君ヲ殺メ主トスソレヲ主ニシタ  
四姓代ハ四代カハリ主ハ十人ホト替之此景地之本林彪  
タイ子イ山ニ来テ見レハヨキ風景モ無ソ秋ノフナレハ有清秋タ  
立シテ冷クナル久曲ナセニ風雨テ打破テ除イテアノニ、ヲカ  
ル、ソアノ不羨モノヲ當一乱ヲ治ルナラヌハ飄ニ風  
ニ任セテヒルカヘル一扶搖子幾人モ君ヲトリテ一此莊子  
逍遙篇ニ出風ノワタノト吹上ル一此方カラシコナヲ付テト十  
ラヘモフハノト行シニリナイ者ト云フヲ云脱履田野ノイ  
ヤシキヨリオコルト云フ布衣ヨリ起ルト同シ後漢光武ノ時雲臺

觀ト云ヲ作ル昔ノ宰相公家ヲ繪圖ニ書テ置レタ夫ヲ取テ此ハ結  
構ナ官ニナツタト云フトテ昂ニ馬ノイキツテハ子ルヲ云  
此ハ時君ニ用ラレテ時メク者ノ一 沉ニユルリトニワカニシ  
テラル急フハリノト不羨テハ子ニツツテウレシカロヨリ身  
ヲ退イテカモメト作遊ニタカヨイト云一 不張 天地ノハリ繩  
モ切レテ 茲 聖 馮道ヲ聖人ノヤウニ思フ本 長樂老 己カチニ  
付ク心ハ思ハカワレモ 吾ハカニワヌイツモ衆ト云心 儒臣一  
ノ馮道ヲ譽ルハヒヨシナリ宋儒ニモ譽ル者アル 政 歐陽子五  
代ノ史ヲ書馬ハ温公 四方牛 一足サヘツヨイニ万牛ヲ先ヘ立  
テ行ヲアトヘ引戻ヌハ難ヌ一ソフノ一カヨク思故并メモ不忠者  
トサトヌ一難キヲ云今聖徳太子ヲソシリテ守屋ヲ譽ルニサトシ  
難ヤウナモノソ 大行一山 千里ノ長キ山ニヘ 剝 スキヤ  
ナトテユケヤウヨユリケハライニスル一 孤懷 サテ一此 豈  
ヲ思ニ見レハイワヲノキシニテイキトリカミナキル 它山

外山カ見テサテモアナヤウナ不忠モノ、臺ヲナセヲクソト云テ  
耻シメ笑フソ去ホトニ此ヲウナコホテアトノ土ヲ去テ山ノ土  
ヲソ、キタイト注一日今待臺ヲ立タカラ 死 灰 ケカレタソ山  
意フテテ者ノ臺アルニ一 雨 昏 一 賦 待 一 吟 待 臺 下 云 同 シ  
クテシ 丞相 馮 一 一 二 ナルニ一 賦 待 一 吟 待 臺 下 云 同 シ  
歐陽修 歐陽カ筆下云 四 維 此 至 極 格 物 程 朱 毛 嘗 定 テ 古 代 ノ  
一カソフタテ有フト云一ソ此ニ付テ唐ノ柳子厚カ 祝ニ礼羨アレ  
ハ廉耻ハ云及ハス礼羨知タモノ、廉耻ノ無ト云一ハナシト云テ  
破テ置ソ聞ヘタヤウテメツタナ一カヤナ一カヤウニ四ツ拳  
テ教ヲ立テ功ナソコノ一ハ構羨ニモ書タソ 笑アノヤウナヤツ  
ニ天下ヲ与ヘケレハツイヤフレ一シタハ七ナ一十下 死 豈 之  
臣 何ソ大夏ノ場テ至ノ為ニ見豈ニ死ル一五代モ余ホト久キカ  
考見レハ此ホトヨリ外ナシ武夫皆トレモ文盲ナ大将 不肯出  
アタニカラ不出ニ居タソフナ 是時隨分此時ニ巾紙ニテサカシ



テシルサル、司戸軍官ノ下官不納宿錢ナキ故入レヌト  
目一タ引斧口惜イトテソコニアル斧ニテ馬司光范質称  
木馬道ニ諸人ノ能云タハ此ノ范質カホメタシカラ大分人カホメ  
タリ不羨同類ユヘホメタ誓古古代ノ一ヲ能シル質賣ナ  
トスル者カアルテモ出シテ置テウレルトキヤツト菓子テモ出メ  
スリカヘテ置ヤウナフ坑タカ不可轉コウテ云ホムル  
十二丁織紅女ノケイノスクレテモ如家一家中親子ノヤウ  
ナルヲ智子出処ノ明ナ人ハ今道忠臣テモ智士テモナイ  
三師天子ノ師ハ三人シテスルノカシラ素叔食素一キ柄無  
フテ禄ヲ得ルヲ迎謁コナタテ無テアトスル人ハ無ト云テ迎  
ニユク他人ワタリ奉公人ト一ツニ云レ又殺身成仁ソウ云テ  
不入トニ死タリ立ニワリ無調法ヲ死ルヤウナフハナイ孔子モ微  
服シテサケラレタアリ夫レテ并殺サレタ聖人ハナシ為賢者  
尾ヨク死ナスヲ賢トハ云ヌ中士スケレモセス又阿房ト云テ

モ無ト責ニ服カ明ヌヘソ孝子列ノ文章ノ存テモ別テ是  
ハ出来タソ田君世上ニ人ノ知タ孝行人此ハ百姓テ姓名カ然  
ト知レヌヘト云墓表ハ分シルシテ上下通用ニ人ノ墓ニ石立  
テ表ヌルヲ云文ヲ書タモト云至微ワツカナル身前瞻  
天地ノ初後寮天地ノヲワリ百年ヤツト十三丁無幾ニ  
此ナレハ何モトヘニアツカテヌトカト思ヘハ頼シイトカ一  
ツアル存人ノ心ト云モノ斗ハ義理一盃極ルト三オト交モノ  
カ身ニアル存鳥身ハ死テモ終ルヲナクイツニテモ天地トモ  
生夕者カ有孔朱ノ夏葉ノ如ク人ノ有ニ限リハ終ルヲナク生テア  
ル伯夷ト万世ノ後ニテ此ニ由テ忠義カアレハ今ヨリ万世生テヲ  
ルト云モノソ傷而失義理ニ疵付テハトヤクタトモ無イニ由  
テ死ナヌヤウニト貪夫生佛カ如キ全夫此天地ニ交リ天地始  
終ヌル理ニ疵付ニイタメ之此ハ平居タニミノ上ノ夏ニ以元而  
平生大夏ニカケテ置身ヲ露塵モ不思回視子シムイテナシト



トクヲヘテアルコト云 皆天理人心 吾物スキニハセス比セ子  
吾存カヤマラヌト云モノ人人生テ居ルト云モ是ノ故之親ヲ見テ  
モ何レナイト云ヤテハ石佛テ死人ト云モノ一死ノ餘タト  
へ身死シテモ差理全ケレハ差ノ分ハ天地ト流行スル故生一ト  
云モノ 稟シロリトシテアルコト云スサニシイト積カコハイテ  
ハ無シロリトノ存ルニ 自若ニ 伯夷ノ楠ト云者ハ今ニ存メラ  
ル故忠義ノコトニハ伯夷ヲ云子ハ成ヌト云ト身カコヘル人カ聞カ  
ハ涙ヲ流ス其心カ祭レハ直ニ鬼神トアラハル、イツニテモイキ  
テアルソ筋骸之只吾身ノ為ヲシタイト云計テ耻イ命ヲノカレル  
禽視一見レハハツキト邪正カ見ルコトナラヌキコト鳥ノ  
物見ル知シ人サヲ為ヤラ知レヌナリテ心ハ皆死ルコト居ツテ切ツ  
テモ血ノタラヌヤウナリ 自視其身 人カニ夕性善ナ者故扱ミ  
口惜イ今モ死ニテモノケタイト思フコト有 継 一度死ヲ免レタ  
ラ 百千ト 無度死タイト思心カ出シハ吾ト百千万ノ死ヲスル

ヤウナ者ソ平生ノ云ハハ余ヲ全フスルカ順ナレト云 襄ニアヘハ大  
夏ニ疵モ付ヌヤウニシタ身ヲトント死ニテケルソ刘因ナ極テ名  
分ノ学大義大節ノ学明ニメ朱子ノ後此ホトノ大義ノ時十人ハ無  
イ薛文丘ケイ山ヨリハセタ処アリ 先人 因ノ父ニ十四丁 金源  
金ノ代ノ下 注 国語 国ノ者ノ云ヤウニ按出処此ヨリ金出ルニ  
日本テコ金ト云ヤウナモノ所天親兄弟主人夫レ皆天トシ貴ハ  
下 不自容サテモ耻シイレキノノ人ニハナウテ此ヤウナ下ノ  
ニ忠カアルカト身モ千コナツタ 為之此ヨリシタイニ輯メテ  
祀ササウト思フテ 小祝中紙ナトノ内ヨリ出メ 増補ニタト父  
ノ祀サレタ十餘人ノ上ニ清苑処ノ名之是カヲキ、出メ 陷  
元ノ夕メニツフル 駟居 夷狄ノ乱ホトヨイテスルハナイ  
出而スキトカク出メ集メテ戒ル 老者足ヨハ共ヲ皆出セト云  
夷狄ハムコイコトヲ知ラヌ故ナテ切スルヲ悦フ 十余人大勢兼ヘ  
テヲイテカタハシヨリ切ニ父ニテノ間ニ亦タ切ラヌ者カ十四

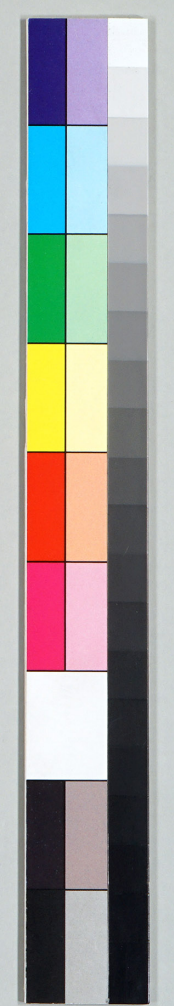
アリ 潜性カヘテクレヨイ云テハカヘ又故 掘地 犬ツタハイ  
 ニ成ツテ 挙火 タイニツテ切タソフナ 及半 切り捨テニス  
 ル 以藝 ナニソ一藝有ツテ 次安爾此ノ由守ニ父カ殺サレタ  
 レタ 履 ヌスンテクル故ヘ 佛胫水カアラキト見ル十五下  
 得孝子 号ヲヒロク付ケラレタソフナ 猶瀧水 曾子ノ云レタ  
 ハウラバラノヤウナレ共何モ孝ニメ常ト変トノ違イニテ皆ハ一  
 ツ之極メテ明ナ見ニ 皓乎 ハハヘ行ハタル 累 コラノト  
 重子タト土ヲ重子タ之此心ハイツニテモ世界アラニカキリハツ  
 、ク程ニ天ニ 有四表ノナリヲ九クシタソフナ 匪石今石ヲ見  
 ルトニメ色ニカササラメハフ字テ文字ヲ書クトスレニ戒ノ文カ  
 無故雅カ墓ヤラト云タ計テ文カ無ソ然ルニ田君ハ石ヲ無ナイ文  
 章カ有リ 旌右 忠孝ノ莫ニヨツテ俗ヲハケニシタイト思フ者  
 アラハ 原 墓処ニアテテハ墓所ヲト云礼祀ニ九原ト云テ  
 アルカラ之日本テモ島田山ノヤウナ処ヲ文章テモ原ト云ソ

式之車ニノツテシキシテ通レメト云カラハ孝子ノニ子セイテ叶  
 ハヌト  
 日本ナトテモ家ニノ軍記ト云者ハ祥ニ有恃ニ武気ヲ好ク因ナレ  
 ハ武畧ノ一ハ祥ニ記シ手柄ノハ細ニ記メアルカ三綱ニ与ルハ  
 ツント云テナイ日本モ其時分見ナリヲシタノ三綱五常ニ与  
 ルトカ多有タテ有フナレ共其ヤウナリ記メナシ甲斐ノツレル鳥  
 居与七郎カ女房軍兵ノ手ニケカレヌ井ニ入テ死タヤウヤク是等  
 之太平祀テモ村上彦四郎ヤ勅使河原ナトノ三ニ其外多ク有ニカ  
 祀メナキハ惜キト云

靖献遺言口叢卷之七終

靖献遺言口羨羨之ハ  
息引取ル時ニ云一之推トテモ死又者ハ無カワケテ有テ  
羨ニ死ヌル時ニ昏捨ノヤウニ云テ置ノ辞ニ此ノ絶余ノ辞ト云ハ  
漢ノワウフキヤウカ始テ書タリ之此者ハ悪人ニ夫レカ書タカラ  
シテ昏捨ノ書ヲ絶余ノ辞ト云遠文帝此ノ人ノ為ニ生終ラレタ故  
ニ各名乗タソ文淵瀾此閣ニトノニスル儒者ノ大害ソ方孝孺  
此ノ人ヲノセルハ古ヨリメ一家一族主ノ為ニ死タト云ハ此人  
ホトノ下ハ無ソ余リ一家一族ハコク殺サル、処テ是ハ又余リシ  
イテ了簡モ有フヲシヤト忠羨ニナリヲ付ル故是ヲノセテ此度  
吟味ヲ逐テ置ソ洪武明太祖ノ年号以薦人ノス、メテ目見  
ス老其オトクト学問ヲヒ子サセテ成就シテカラ用ヤウト云テ  
著述書ヲ漢中府蜀ノ国ノ物名ソ漢中王ト云テ太祖ノ子共  
衆カ有ソノ師トセラル、翰林ノ筆ノ林トヨミテ天子ノ側テ  
勅定ヲ昏役之極メテ近習ソ宋ノ時ハ彼ハ重テ権ハ夫レ程ニ無イ

絶命辞 息引取ル時ニ云一之推トテモ死又者ハ無カワケテ有テ  
羨ニ死ヌル時ニ昏捨ノヤウニ云テ置ノ辞ニ此ノ絶余ノ辞ト云ハ  
漢ノワウフキヤウカ始テ書タリ之此者ハ悪人ニ夫レカ書タカラ  
シテ昏捨ノ書ヲ絶余ノ辞ト云遠文帝此ノ人ノ為ニ生終ラレタ故  
ニ各名乗タソ文淵瀾此閣ニトノニスル儒者ノ大害ソ方孝孺  
此ノ人ヲノセルハ古ヨリメ一家一族主ノ為ニ死タト云ハ此人  
ホトノ下ハ無ソ余リ一家一族ハコク殺サル、処テ是ハ又余リシ  
イテ了簡モ有フヲシヤト忠羨ニナリヲ付ル故是ヲノセテ此度  
吟味ヲ逐テ置ソ洪武明太祖ノ年号以薦人ノス、メテ目見  
ス老其オトクト学問ヲヒ子サセテ成就シテカラ用ヤウト云テ  
著述書ヲ漢中府蜀ノ国ノ物名ソ漢中王ト云テ太祖ノ子共  
衆カ有ソノ師トセラル、翰林ノ筆ノ林トヨミテ天子ノ側テ  
勅定ヲ昏役之極メテ近習ソ宋ノ時ハ彼ハ重テ権ハ夫レ程ニ無イ



明ノ時ハ此官カ権ヲ取テ天下シラキヲスルノ直文此カ学  
者ノヲル大吏ノ御殿ニ先命ヒ子サセテ用ヒヨト倚重世上  
一同ニ此人ヲ重シニメ孝孺ノ徳ニヨリカ、リテヨルソ異心  
至シカ器量アル者故天下ヲ奪ヲト云齊泰此ラカ権ヲ取ル  
削弱燕王ノ弔王ノト云カ大國ノ取ル故後ニ是ヲカ六借カ  
フト思フテ、旧地ヲ削リヨハメタソ分テ燕王カ大國ヲシメ  
テ居ル故為号是ヲカコ付云立ニメ軍ヲミコシ北平燕ノ  
都南下明ハ南ニ都スル故逼京城只一ノワリニ攻メ入ラレ  
テ無下ニ内裏ヲ取コワシタ此度ハ皇明通記委分心死吾此度  
公ノ御用ニク子死ル一丁金川門禁中ノソト郭ノ大門谷王徳燕  
王ノ弟ヲカ夷ニ居タカ迎降引入レタ変服出家ノ体ニナ  
リノカレテヤケ死タニシタリ即位後永樂ト呼ハ是ニ凶午コ  
メニスル一初登軍ヲ出メ時道衍此カ僧テ極メテ功者邪術  
ナヤツコ囑云フクメル一武成之日書経ノ篇ノ名武王紂ヲ

攻落サレタ一ヲ云故軍ニ勝ニニシタイヲト云好学學問  
ノ程カ尽ニセウ程ニ降スニ殺サレナト云召用兼テ聞及ニタ  
遺諭使ヲヤツテ云フクメル即位詔天子位ニ即ハ即干位ノ  
詔ヲ天下ニフレル一此ハ極メテ大吏故ハ文章モ入ル一之草  
下唇ニ挙孝孺此ノ時ハ孝孺カ下唇スレハ永樂ノトラレタモ  
苦シカラヌト人モ思フホトノ一之先生永樂カ極メテ暴惡  
ナ者ナレト一トアシロウテ成王建文帝ヲサス意ソ渠建  
文帝之是非モナイ頼長君ソウモシタケレ在國ハ長メヲトナシ  
キ者テ無テハナラヌ故ソフモナラヌト之然ニ弟タナニレキ  
長君ノアルカナセント云此朕ソレニツテ夫ハヲレカ家テ  
ノ内澄一ナレハソ干ハカマワレナ非先生草ヲレカ天子ト為  
ルト云ヲフレルニソ干カ唇子ハ天下カ合点セヌホトニニ丁大  
唇數字何ト書タカハシレヌカ下ノ死則死耳ト云八字ナランカ  
遠死何ノ速ニ死ナセウソナフリ殺ニセウ一門ケシ族ヲタヤ



ソウソト云々 備遺録此カ一冊アリ此時ノ軍記ニ犯フキカケタ  
繫獄 不殺ニニタセテライテ 抛帳面テタルヤウナリ其次キ  
ハ推ミト云ヤウニ引出スニ 宗領支流孝孺一門枝葉ヲ拔タメコ  
子ハハメル 吾学編 明ノ儒者鄭一カ此時ノ一ヲ祀ス十四卷  
ニアリ 每抄提ヌキ引キ下ケルトテア千コナカラ一族ヲツレ  
テクルコトニアレニ難哉サセウテ此已カ甥ヲ本ツレテキタノ從  
弟カ来タノト 礫 唐テノハリツケト云ハナフリ殺ニスル  
宝門カケレモナイ門ノ外ノ日本ノ名ヲ書各ト云 靖難今度ノ  
軍ヲサシテト云ニ口午ニアル難ヲシツケルノニ字 来見兩  
子ヨヤリテアニリナリテコサル程ニ双テモクルシクアルニイ  
ト云ハヌ 軍校 軍ニツカハル取手ノヤウナ者ニ 論死 取  
ライタカ罪ニ為リテ 九族ニタ答カタヘスノユカリノノ未  
ニテ答ヲカケル 禍備 夷狄サカイノフセキニ難哉ナ処ヘヤツ  
夕數百人 弟子カケテ以上三千人程ノ先トラヘヌサキニ

被逮 免孺ノ罪故ニ女ニ及フト云下 目之メツカイメイリ  
ハセテ子共三丁阿兄ア子テ俗語テ兄ヲツ、シンテ阿ノ字ヲ付ル  
ソ淋ニハテトコボル一取義孟子成仁孔子主君ハ死忠ヲ  
尽スハ是ニ花表 秋ハ墓シルシノ柱カテニテ令カ鶴ニ成テ秋  
柱ニ止タハ云古更列女傳ニ有リ日本テ秋ヲ鳥居ノ一ト云ハ誤リ  
似タ者テ違フソ 依旧 君ヲ思フ意ハ皆本國カヘリ君一処ニナ  
ツテイント之 吳志賞 以ノ細字入タハ孝孺ノ死ニ付テコウ云  
吟味後世ニ有リ苦一分ノ節ヲツヨク守リツメントテ家門弟子マ  
テヲ尽メイカニメモ余リ了簡ノナイ一シヤト云説有テ惑ヲ生ス  
ル故夫レテ吳志カ委ク共義ヲ行シテレタ故ヘノセラレタリ 玉  
子微子 箕子 比干ナトヨリ 信公 文天祥 鍾至アトカラク  
正學先生孝孺ノ一 指冠 サシトラスガテニ埃荆何ガ古更ゾ余  
リキフイ一聞ト冠ヲ髪カサントヲス如クハツキリトソヒニ立故  
一 高論之林 孟子万章ノ篇ニアル故古人ノ一ヲ尊シ論スル

古ヨリ忠義ノ人ヲ譽々論カ大分有レ共孝孺程ナ人ハナシ不可  
解カナシミガトケヌメ余リノナゲキニ了簡シテ云ニハ不衍字  
欲益ノ字テサルト云ハ持テイル周廣文次モ孝孺ト同時代ノ  
人ハ是ハトテモ捷カ惡逆ノ為ラヌヲ知テ城ノ落又先ニ自殺シタ  
ハ是ハ早ク死タマテカ附焉カウ云テ古今ノ評判ゾ附ハ忠知氏  
ニアルト云一七尺吾身ニ是ヲ知テ主ノ為ニ十族死タト云一  
ヲ知マイ哀艱兵糧ヲツミモタセテ為廣文自害スル間  
モ無シ以中庸世間ムキノヨイカケンニメ云又ケント長平抗  
昔シ秦ノ時ニ白起ト張活ト戦テ張カ負テ皆降ル其數四十五  
人白起ガムコイニヨツテイカニモトウケテヨイテ穴ニ充テ  
ウツメタソ知ラヌ更シヤト云ハル次テ逆モ死ル命ナルニ皆討  
死シタラハ何ト同死ニ主為ニ死ルト大ナ義テハ有マイカ睢陽  
城ハ四卷目ノ末ニ有ル睢陽カ陥ルト都カタマラス故次程阪イタゾ  
老弱

土地コウ云節ニハナルニイカ余リトウヨクナト之兩將中  
張巡ト許遠ト二人ノ答ヲ云アフナラハ唐楷アライ米トテ鬼  
神ヘソナヘル者ソレテ食物トナルト云一云字ツカイテ唐ノ  
為ノクヒモトト為テ死レハ本望ト云一且暮干ツトノ間相  
方万ノ違ノト死唐ノ喰物ノト成ツテ死ルト同不媿一門ト云  
テモ耻シカラヌ九原忠義ニ死タ者共カ九原ノ此ヲ知タラハサ  
テモトト冠ノホコリヲハラテ互ニ喜テアラフ九原礼祀ニ出ス  
墓地ナリ孔子ノ時分九ツ有ル故之李此皆先生ト云字ヲカフ  
ムル合点ソ先民之缺昔ヨリ一門一埃君ノ為ニ死ルト云ハ欠  
テアルヲ補フタト云モノ之終古昔ヨリ今ニテト云一之本  
類ノキノトシヤキリトナルト炯ニカノト光ルトイカウ器用  
ナ者ハ眼ニ光アリ髻タレ髪トセシテ髻ヲノハシテユハレモ  
也スアル七歳ハカリノ時分ニ断ハカケルトテ齒ノカハルト  
小韓昔ノ韓退之カ呼名ト云テ舞雩孔子ノアソハレタ愿





作ル共 頓 固 一文字ニカヘス 幡 ハタノホリニルカヘル 根 幡  
野モハタカニリ梓ノ根本ノカラシクヤウニアソコモコ、モテ  
ラカ此立テ治乱モ此ニカ、ル 漫又シメリトシタテ 不生程朱  
孔孟ノ書ハ有テモ 視青天 何晏ヤ趙岐カ注ナトテハスニカ  
定之 如雲物ノ多キニツカウカ此ハカサノ高イテ 辰夫ヨ  
ハキ物ノ重キ物ヲ負ントスル 不我化 吾思ヤウニナラヌト云  
テ 蓋天下 コレアレハソレ程ノシルシノ付ヌテハ無ソ 前朝  
宋元ナリ 故習 ヤウヤク待文ノミニ 成説昔ヨリ 疑ンテ  
千コナリテノニサル 態モツタナリヲ云 六下 伊周 一君  
ニ復ル者ハコウヌシノ忘ヲ立 棄其所学前ニアル如ク孝孺ヲ殺  
メ学ノ絶ルト云ホトノ 願 存分ニ叶フタリ 虽然 夫レ  
ナラ此序昏タト云カ本 献王 太祖ノ子其師宋濂カ下此カ災ニ  
合フテ能フナイ者ナレ 昔ノ師故 刑榛ウハラムクヲノ繁リテ  
有ッ 孤遺 師ノ子共衆不殘念此ニスルヲ 正学 朱子以来ノ

学者ト云テ献王ヨリ下サレタ 賜教 日本テモ親王家將軍家ヨ  
リ下サル 御辱ヲ御教書ト云教ノ下テハ無 闇 一其ツヲウチ  
ヲアテ一 一國テ云ハ 闇 國ト云家ナレハ 家ト云 夙心 平  
生各ト極メ入ル志ヲ云 体 引受テ禁書シタ物皆燒テ捨引サタ 儒  
紳 儒ノ奉公人ヲ云 孝儒ノ古郷ノ儒官ヲ 蒐アテコナニアルヲ  
カ 鐔梓 今遜思齋集ト云テ世巻ホト有テ唐本之夫レニモ  
色ニ有ルカ口ニ年譜ノ付タカ一 希ニアリ先ニ云 処皆遜思齋テ  
ル明朝ノ文章ニモ少ツ、有ルセ 王統 王シ一生ノ見之ナレ 臣  
此格ハ朱子ノ論トハ違フソ此吟味カラシテハ湯武カラシテ正統  
ニハ入レラヌソ 往後人トリヤリノ書 半 東カタハナシナ 昏簡  
ニテヲ云 金壁 余ノ手ハヨイカ 服明ノ 悲楚 イハラテ身ヲツ  
キサヤウナリイラノ、シイムコイメニアハシ 不少 回少シモ子  
シムク 一 無シ 忠哉 勇シテハナシ本 乱離 シタレウレソルト  
云下 其由トウシテナルソト 猶大ナ 国家ノ下ナトニカ、ルハ

ハカリテ之 交流ニセヨウテ注 兵郡一山ヨリ孝孺ト一時ニ見テ  
ニ死ナレタ衆ヲノセル。鐵鉞皆建文帝ノ臣ト燕兵ト云ハ皆先ニテ  
永樂カ兵ト思ヘ 濟南一城下鐵板 ハイル処ヲヤクヲヨリキ  
殺ス合点 傷一アテソコナフテ 提窟 手ノツツテシヤウ  
無イキ城強シ賤ハ立之 宴犒 有ヲ料理シテ喰ス一捷ニタ  
ヒカツ之 入城 都ノ擁カヘテト利ス 駐人數ヒカヘテ  
一顧セメテ一度面ヲ子チムケト云ヘ氏永樂カ方ヲ見モセス  
ハ丁 廢碎 半切リクタク 細注 版筑 フシシモスルカヌノ城  
ニ 廢碎 ミシヤクル一最一券帳トスルソ 都察院 惣横ノ目  
ノ役所 良臣 御用ニ立重宝ナル臣ヲ云忠臣 節ヲ変セヌヲ云平  
生氏ニキシヤワレタ共ニコウ云レタ 景澄建文ノ大将 觀望  
トナリトツヨイ方ニ成シト保元平治ニ頼政カ源氏テモ平氏テモ  
ツヨイ方ヘ付ント見合テヲ如シ 徒死 ナカサレウツサレテ注  
伯尚子寧ノ人ニ 遷国カヘスル一鳳一三六ニ属スル処ニ 塗

人カチカ本ト先祖ノ国テ本國何擇ヨリワケハ無イハツ 争者  
ナセアラツウナレハ重各カ重シ 塗 兩國ノヲモシニモ成テ  
此テ処ノ輕重ニナルハ注 翰一文官テ倫旨ヲ唇役ソ 脩撰 唇ヲ  
アム役ソ 金陵 明ノ都各將カモハヤツフレタト云ヲ知テ注 穹  
天ノワシコリトソル一志 親ヲヤシノフト云 音疾 ソヤノワ  
ツラハレタ一珎シキケウカル 病ヲ云ソウ云テ怪シキ病ト云一テ  
無シ 在按 死ナレタレハ 九泉 地下ノ泉ニ九ノ字ハ教ノ極  
リ故一ト云九天ト云ト同シ 獨偏 惡イ一ハナイ惣ニハヨイ  
トシレ氏 吾目ニハソウ見ヘヌ一 高踪 古人ノシラレタアトラ  
フム一 有爾 各ヲ如キノ一ナレハタトヒソウ有ル氏 今テハソ  
レモツキ 難キ故ヲユルヲ不待自害スルソ 賢 伯夷 徒然 ヤ  
ミ一ト 慚 不忠ノ者ト本 召子燕 遠文ノ召ヲ受テ燕ヲト  
カメ立タカ 九丁 刺血 已カ指ヨリ血ヲ出メ 憤辭 ナケキ  
ノ辭 注 廬陵 胡銍以來此処ハ一 鯁 莫ノアタニノ骨ニ



丈夫者ノ一ヲ云 錦衣 錦ヲシノ衣ヲユルサル、小性組之本  
屬 遺言スルヲ 勿易衣 君ノ御為ニ死ヌレハ拜領スル衣ヲ  
着テ死ヌルホトニ 礼部 此ヲモ礼ノ役ハ尚昏ノ中ニ 大計  
天下ノシヲキ軍等ノ一 軍儲 軍ノ入用ヲタクハヘル一 聞  
變 此度都ヲセメク一ヲ聞テ 丹一度ニ不切ニソキ切りニスル  
一余リニ悪ニテ 累我 コナタノ忠義ヲ立故此ヤウナ目ニ合フ  
トウ口タヘタ一ヲ云 叛方 叛方熟 イリトリニスルヤウニ 好吃  
何ト耳ヒカト 凌遲 千ニ一トヘル一一度 不切ニシ、キラ  
ル一ト 天王 古ノ太祖ヲ云 顧命 カヘリニ命メ天下ヲ大夏  
ニセヨト 山河 漢ノ高祖カ大名ヲ封スル時ノ言ニ山ハ石  
ノ如ク川ハ帯ノ如クナルニテモソナンヤルト云テ命スル夫レヲ  
引テ巴カ守ル処ノイツニテモ不易ツヨキ一ニ云山ハ砥石ノ如ク  
ニナリ川ハ帯ノ如クニナリテニテモ此御遺言ノ通ハ違フニイト  
ノ云分ツ本 五噫待 一 体ト云テ後漢ノ粟伯鳥カタテタ待ニ

一言テハア、ノハト云度云ニ意ハ述懐ナ一ヲ云昔ヨリアル詩ノ  
体ニ 約与 一舟ニ乗テニケル一イサト一ニ舟テ外ト約束  
スルニ 礼科 此モ礼宮下役 外艮ハ丑ノ象ニ 麾下サイノ下  
ト云テ旗下ノ一 去ツレテ行テ 十表裏 木死 絶食シテ死  
ナフトセラレタ 款服 ソコ意不殘降参スル一 瞳目 莊子ノ  
文字眼見出メト云一 更定 トフト云一カ落付テカフ 余直ノ  
孝孺ノ字ニコレカ死ニテ孝孺ノ神具ニ云テ共ニツカニ殺ソト  
琴川一橋ノ名給 知テハ止ルニ何心ナイカホシテ 祭具母ノ  
祭ソ 魯公大人 父ノ一ヲ子ヨリ云言 子職 今君ノ為ニ死ルハ  
察院 吾役所ノ注 大守 此ノ役ヲスル大守 丹心 清イ赤イ  
キレイナ一 青史 史筆ノ一 縣令 吾一木故更ニ人家ノク  
ツレハ一本ノ木テハスクハレヌ一 大慶 大ニ立夕御殿ニ 三  
軍今ノ大将衆カ 長城 始皇カ一ヲ築イタヤウナハカノ一ニ  
イフモ無ヤウニシテイラル、 吳明 建文ニ申上ヨトニ此時建

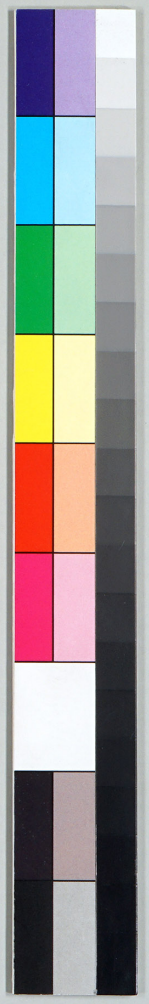


建文帝未夕生テイラル、故本父屍、此ヤウナクハ父ノ遺言ソソ  
ムクヤウナレ、此ハ皆ニ似テソウテナシ能ク云ハテ不叶也ナレ  
ハ行テ後トモカクモ成ヘシ大形ノ一ナレハ、此ニ死ヌルハツソ注  
贅入聲之ソレテ初メハ元ノ氏ヲ名ノル、索、此ニ人ヲサヘ出  
サレタラハ軍ヲ止ント云、此ヲ云立ニスル十一丁表裏、翁、氏ト  
見ヘタリ、招魂、旅テ人ノ死ヌルヲ聞テ祭ル、ソ楚辞ニ初テア  
リ、葬、ワラ人形テモヌルカシテ、釵、金テシタカウカイ  
釧、女ノ腕ニサスクハニ、皆今ニテスルモノ、故此ヲトリ代カヘ  
テ酒買テコイト云テ外へ出メ其アトテ身ヲナケタ、通、河、城  
ニワリノホリニテ、羅、利、磯、ハトノ名、大河ノ水ノ堤ヲ崩サヌヤ  
ウニ川中ニシ出スモノ、之川筋ニハ此ヲヨクスルモノ、之、浙江、按  
ト諸司、仰、天子ヨリ与ル印判之漫ニセヌ蘇武カ旗ヲチハナサヌ  
意ソ、刑部尚、此モ宰相ノ一カフテ刑代ノ方ヲ主ル、枕、鬲、東  
ハガアフテ、教授、学校、教ル官、各日本テ廣ク教ルヲ一ト

云ハ誤ニ此ハ官ノ名ノ、陸、明、倫、孝、孺ノ仕ヲキシテ、時ニ皆  
小学ノ字ヤ四、昏、六、經ノ字テ官ノ名ヲ付ラル、此時王省ヲ明倫ノ  
官ニシラル、此ニ不入トナレ、此ヤウナク孝孺ノ忠、羨ハ余リ  
アレ、此余リ殊勝過テヲホコナクシラル、ト云者、官ノ名ヲ四  
書六經テ付テ人心ヲ和セントセラル、此ヲカ不入ト、今日、吾  
明倫ノ官ナレハ、觸、柱、アタニキワリテ、戸、給、吏、天子ノ御納  
戸ノ名ツカハレノ内テ小性ノ重イヤウナモノ、板、城、下、死、ユル  
サレタラハ吉シトスルカト思ヘハ、此時モ大分死タ人カリ皆  
ハ祀サレヌ故内テ此衆ヲ祀スカ多イ中テモ此ヲ載セルハタトヘ  
ユルサレタリ、此生テアルハツハ無ト云ノリヌル、十二丁、景、清、  
景、ト取ト音相通スル、故コウモ昏カヘタソ、平家ノ景、清、カ頼朝ヲ子  
ラウタモ丁ト如此、サ、ニ、ヲ、色、ニ、ニ、カ、ヘ、タ、カ、文、字、カ、天、然、リ、同、一、ナ  
ハ面白キトト思ハル、ソ、欽、天、天、文、ヲ、ウ、カ、フ、官、ソ、犯、座、帝  
座ト云テ北極ノキワニアル、天子ノ身ニ難アレハ、客星カ有テ帝

座ヲ犯ス下アリ。緋トノ衣ヲキライタ。此時ノ客セイモ紅色ニ  
此ヨソト云場テノシキリ立タフシノセキリノキワ立タ場ヲ云  
初燕兵。此ヨリ儒ニメ不忠ナル者ヲ記ス。楊士奇皆建文ノ下ヲキ  
ニアツカルレキ。衛府。此モ建文ノミヤ立之。紀善。太  
子ノソテハニヲル。孔子東宛ノキヒサシノ廊下ヲ云。孔子ヲ祭ル  
即ニヤコ之。宣聖。孔子東宛ノキヒサシノ廊下ヲ云。孔子ヲ祭ル  
処ノ東ノノキ下ニテ死タ。安王。此モ太祖ノ子。叩頭。カシラ  
ラ地ニ付テウヒル。蹇義皆儒者。勸進。天子ノ位ニ付レヨ  
ト此方カラス。メテ大位。永樂カ朝ノ。藏昏。唐本テ杜卷ホト有  
ル者。胡。シノト云。トカノソイテ見ヨト日。是モ死ル合点ナラ  
ハ猪ニハカ。フニイカ同。死ソテカ父ト同ク死ヌ思モワレウカ  
解文章ノ上テ。永樂カ朝ニ用ラレタモノ。故言ソノ咄ハ色ニ有  
テ變レ共トカク約ル。忠キト云ニ變リナシ。十三丁。同時文学  
皆孝孺ト同時代ノモノ。昏徒ス故アリカ。ハ子ク記セハヌシヲ

ニサワル。故其処ヘカツキリトハ記サス。故カアル。菅之。際會ヨ  
イヲリニアフ。彭詔。明ノ末ノ儒。哀江南。コウ云歌ノセウ  
カ。アキニ一ツ有ル。永樂カ江南ヲモテ。故此ヲ憐ニテ作ル。詞之  
餘生ヤウヤク首ヲツイテ居ルヤウナヤツラ。故ハ正ク書サルコソ  
尤ナレ。鄭賜。皆レキ。ノ儒者。關係ソシリハシリノ者テ  
ナシ目立タ者。進用。永樂カ朝ニ。頒布。皆近世ニ行ハル  
ル。大不幸。朱子ノ字ヲハヤラシテ不仕合カ三ツアル。理宋  
兄ノ太子ヲ殺メ立理宋ハ朱子ノ彼彼ニ朱子ノ学ヲ廣タ人ノ夫  
レテ理ト極スル程ノ人。許衡。宋カツフレテ元ノ乱ニ朱子  
ノ書カ既ニ絶ントスルヲ許衡カ取輯明ニスル。文皇。永樂此  
時令ノ天下朱子ノ書ヨリメ外用ルナト云。大中。不及過ナキヨ  
リ云ハハ。至。正。至極。祿ヲ得タ。必到。必ソウナラテ叶ヌ。此  
輩。此三人カナイト云テ。政テキ上ノアタリナ。適。使適ッ  
カウ時ハツント由コウ有フト云。教子。一旦ニ行レヌノシナ

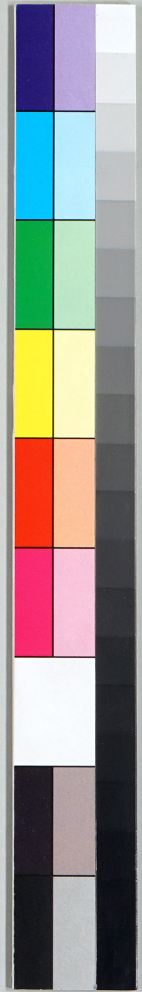


ラ又 綱常朱子ノ学ノ学タルト処 名教 右三人ノ者ハハニス  
此ヲニカスモノ 虚美 物ノ見直ハ実アツテコソナルニ根  
ヲ吟味スレハ大義ヲニカシナカラ朱子ノ書ヲ表章シタラヌル  
同惡 互ニ惡ラスル者カ互ニ相掩テ朱子ノ学ヲトナヘラソレヲハ  
カソフト為ル 引重 重キヲ引ト云テタトヘハ今日ハソレシヤ  
ウトテタトツレ立夕故ヤウナトニテ 朱子ノ学ヲカリテ其レヲ  
カケテヨクミセウトスル 必テツシリト受ラヌ筈ニ 十四丁  
盛 見直ナト 誓浩湯誓秦誓浩康浩ト云 昏經ニアリ 慚德  
湯王ノ祭ヲハナシテ德ニハツルト云レタ 西山 ケツカウナ昏  
經ノ内ニモ名分綱常ノカ、ヘニナルトハ見ヘ子共此ノ又浪人カ  
死タテ君臣ノ名分ハカ、ヘタリ 書經ヤ待經ナトヨミテモ只結  
構ナトノミヲ云 紂カ德ヲ云夕ヨリ外名分綱常ノカ、ヘニナルト  
ハナイソ為之又コレナリニ朱子ニ悦ヒ云トカアル 孝蟠 宋子  
ノ高帝テ理ヘ決メツカナシタ 醇 正学カ異端ナラハキ質テモス

ルト云トウカ 李燾列國 凡采 色アイト云 昭揭 日月ノ  
上ニカ、 慰所ヲ心モ慰ニレウソ 楊雄カ法言ヲ見スト云テ温  
公ノ取レタカ誤ト云カ此カ永樂方甥ト云ナカラ至人ヲ奪テ取テ  
孔元弒其君章ヤ春秋ノ大全ヲメ朱子ノ学ヲハヤラスト云ソ 孝  
孺又 遺言モ末ニナル故朱子ノ語ヲ以テ編終フ朱子ノ手ツカラ  
昏レタヤウナト此時朱子ノ半紙カアツテ夫レニ書レタソ昏ノ終  
リユヘニ始ニハ朱子ノ楊雄カトヲ直ニ昏レタトヲ載セ終ニ又朱  
子ノ言テ終タリ 被利害ヨリ云ヘハ 十五丁 錯 迂 モニテニナ  
ツテサカウト度ノモツレルト之 勢易 此ラカ各言ニ勢ソロク  
トカヘテ易テ天子モカハリ其小人モ死レハハヤノカサスミテ  
理存 是非ノワカササレ又理ハイツニテモ存メ 人 小人ニ  
漸盡 氷リナトノ次第ニ消ルト云 無遺 皆ナクナリテアト  
ニハ公論ノニ存メ理ノ亡ルトハ無イホトニ 徽 國ヲニツリ名ニ  
蔡先生 蔡季通ニ朱子第一ノ弟子 胡 紘 通鑑ヤ行狀ナトニ

アルソ 祗 十ツシリ悪ク云ナシテ 管道 処 各 竄カシ物  
ニシタ 公朱子偽学 惡名付子ハ悪クナラ 又故アレハ孔孟ノ  
子ナモ偽トテ 逐屏 居モナラ 又ヤウニシタ 将 修身モ  
ハヤアレナリニ 死テ名モ何モツフシテナケタレハ 後ニ知テモ有  
ニイト思フアラフカ 皎 乎 其キヲク 若 一イタメレハ 弥  
徳カ見ヘテ 邪 兇 妖 三ノタ ンリヲナシ 狸ノハケタリヌルヤウ  
ナ 遺 曷 目ツラフナツラ 遺 曷 十六丁 告 郡主  
モ奪レテ 扱テモ 惡イヤツ 遺 曷 十六丁 告 郡主  
此手帛ハト 知 又今之集ヲ見レハウチウニ 答ル書ニ  
短イ昏有テサキ 難 兼ニ合ヌヤウニト 頼ニテヤラル 状アリ  
倍類ニモアル 通リ 蔡季通 流サル 時ニ是非共ニ一ツ救フテ見  
ヨト云レタレハ 門下 衆カトカクニカレヌ 何トヤラ 斐理テモイ  
シハシ有テハ 惡クコサルト云レタレハ 朱子モ 感ニテヤメテシタ  
此時ノ 寛 手 口トクオイヤウニ 師友 王シカラカ大ニ

難 兼セラレテ身又ケモナラヌ 薄夫 ウスキ一門テモ 難ニナラ  
フト思フヤウナ 末 俗人ノ一ヲ見捨ル ヤウナ 凡俗ナ 字 昼 朱  
子モ能書ナレハ サソ見 斐テアロフカ 可 傳見 斐ト云ニテ、ナシ  
歸 君子ノナリニヲナ付ヤウニト 方 孝孺ノ文ハ極メテヨイ  
此等猶以之明朝ノ文ハ 鮮 縉ヤ 宗 溪 濂ヤリウキナトカ 唱出スカ  
多ク 溪美ナルカ 孝孺ノハ 丈夫ニメ 斐理尤ヨシ 奮 前一文字ニ  
前ヘノトス、ム 大石ノク ラリト 並ニ立タ 大サワヤカニ 並  
ニ立テ 動ノ無キヲ 丈夫ノ初ヨリサツハリト 瀧ノ落ル如クニ 忠  
斐ニ 死ルト云テモ 踏ニ 殺サレタヤウナ 一テハ 無ソ 落ニ ツフ  
ノケノ立テ見ユル 感慨 日比ヨハイ物モ 氣ニフレテハ  
一タニナ 一ハスル 矯 一タメ見セタテスル 株 速  
類ヲ引テ先ヲトラヘル 一ツ 杭ヲウツナキヲ 株ト云 故先カラサキ  
ヘツナキヲヨシテ 其伯父モ甥モ 從弟モ 捕ヘラル 一ツ 刻 尽ク  
サヲ 茹如クコソケツクシタ 朽 骨 孝孺ノハツ 付ニ上ラレタシ



マレ骨之 偉辞 日比々ケツカウナ下 福前ウツモレタ一信  
 登向シテ 磅 一ハ夕メイテハ夕ヘハシケテユクヤウニ見ル下  
 之 履一 身ニフミヘル下 不 雖 云タ下ヲ一ツモタカヘスニ  
 立ラレタ不食云タ下ヲ違ル下云タ下ヲ又ア下へ無用ナ物シヤカ  
 無待トカク各次第之何モカモ皆吾心ニ有ル下之  
 素定俄ニ出来タ下テハナシ平生ニ極ルカタヲ云 絶 今死ル時  
 一 遺言確カタイ下此ハ守リヨリ云 惻 一 本心ヨリ云 俊偉ヲツ  
 へキモヤフル、気象 歎慕 心ノ色ニ動テシタルハル、下ソクク  
 スル下歎羨ナト、モツカウソ 恃歴代ヲヨスレハ大分ナレ共ハ  
 篇アチラノ忠矣無疵ニ大ニ責業ヲナスハ人 騰録 スクニウツシ  
 トル下 本題 一 前ニ此時ノ下ヲ唇立テ 色 辞 遺言ノ下所以  
 然トウシタ下ニ此言ヲ作ラレタソトノ考ニスル 初下先生此イ  
 カヤウ重イ衆ニツカウイ下之 喻生 漢ノ楊雄カ如キノ盗人カ  
 アル其外售ツヨク此ヲ吟味スルハ是等ハ紛レ者ノ故之一向玉莽  
 ヤ曹操ハ知レタ者故云ニ不足楊雄許衡永樂カ道ヲ堯メ紛ラカス  
 ヲ後世ニ称スル故之巻後此カラ此唇ノ大体之 呼鳴 此ヨリ書  
 ノ名ノ下ヲ云 自靖 面ミノ心一ハイニ羨ヲ尽メ後黒キ下無キ  
 ヤウニメ已ト安ンシヲトシ 寄合テ於合ノ時箕子ノ云ル、ハ今

靖献遺言口羨卷之八終

書靖献遺言之後

素定俄ニ出来タ下テハナシ平生ニ極ルカタヲ云 絶 今死ル時  
 一 遺言確カタイ下此ハ守リヨリ云 惻 一 本心ヨリ云 俊偉ヲツ  
 へキモヤフル、気象 歎慕 心ノ色ニ動テシタルハル、下ソクク  
 スル下歎羨ナト、モツカウソ 恃歴代ヲヨスレハ大分ナレ共ハ  
 篇アチラノ忠矣無疵ニ大ニ責業ヲナスハ人 騰録 スクニウツシ  
 トル下 本題 一 前ニ此時ノ下ヲ唇立テ 色 辞 遺言ノ下所以  
 然トウシタ下ニ此言ヲ作ラレタソトノ考ニスル 初下先生此イ  
 カヤウ重イ衆ニツカウイ下之 喻生 漢ノ楊雄カ如キノ盗人カ  
 アル其外售ツヨク此ヲ吟味スルハ是等ハ紛レ者ノ故之一向玉莽  
 ヤ曹操ハ知レタ者故云ニ不足楊雄許衡永樂カ道ヲ堯メ紛ラカス  
 ヲ後世ニ称スル故之巻後此カラ此唇ノ大体之 呼鳴 此ヨリ書  
 ノ名ノ下ヲ云 自靖 面ミノ心一ハイニ羨ヲ尽メ後黒キ下無キ  
 ヤウニメ已ト安ンシヲトシ 寄合テ於合ノ時箕子ノ云ル、ハ今



尚書微子篇ニ五家ノ先王ヘ一ハケ奉テ死ルヨリ外ハ無イ此  
書ニノル衆ハ皆此旨シヤ程ニ損コ、ロミテ見テ心ヲ古一  
心ト云テ受テ遠求外ニ求ルコトハナク心ニアルコト角士タル者ハ此  
猷ノニ字ニ耻又ノト心得テ出サレハ皆一同ニ忠義ノ人ト云  
者之ソレテ此復ハ箕子カ初テ云出サレタテコソアル忠義心ニハ  
皆此ニ字ノ心故ヘ忠義ノ人テサヘ有レハトコニテモ此ニ字ヲ假  
テ行ソ楠カ此ニ字ヲ知ライテモヤハリ此ニ字カカツテ少モ耻  
又男之赤松ナトハ此ニ大カ耻カアル君臣一ニキノト云ハ  
下ヲリノヤウニ聞ユルケレ共各分ノ学ト云三綱五常ヲ立ル処テ  
是レテ立タ人倫ニテ朱子一ノ学モ此ト云三綱ニ故ニ朱子ノ道脉ノ  
カ、ル処モ此昏ニ有ト思又テ能平生心得吟味メ仕ル人ニハ別シ  
テ咄シテ聞スヘシ

靖献遺言抜口矣終





